

活動報告

「臨地実習指導者研修セミナー 2012」報告： 修了後のアンケートからみた評価

Evaluation of 2012 Nursing Practicum Instructor Seminar (NPIS)
through questionnaire

吉田 文子 征矢野 あや子 橋本 佳美 水野 照美 宮崎 紀枝
鈴木 千衣 八尋 道子 弓削 美鈴 堀内 ふき

Fumiko Yoshida, Ayako Soyano, Yoshimi Hashimoto,
Terumi Mizuno, Toshie Miyazaki, Chie Suzuki, Michiko Yahiro,
Misuzu Yuge, Fuki Horiuchi

キーワード：臨地実習，教育方法，指導者研修

Key words : nursing practicum, teaching strategy, instructor seminar

Abstract

The purpose of this report is to evaluate the 2012 Nursing Practicum Instructor Seminar (NPIS) using a questionnaire. Thirty-two instructors attended the seminar; 100% (32) returned the questionnaires. This program was based on the Andragogy model. In addition, some group discussion was included (e.g. nursing ethics and nursing philosophy). Participant satisfaction with the entire program was 100%. Satisfaction with all sessions was over 90%. Participants felt that group discussions based on their individual experience was very supportive in developing a deep understanding of the purpose of this seminar. Some topics were suggested for the NPIS of 2013.

要旨

本報告は、「平成24年度臨地実習指導者研修セミナー」の概要紹介および、日程、内容、目的・目標の達成度等について、全プログラム修了後に全受講者32人に実施したアンケート調査（回収率100%）の結果を基に評価したものである。セミナー日程は、学習量等からみて適当であった。今年度からは病院以外からの参加も呼び掛けたこと、成人学習モデルの視点に立ち、かつ自己の指導の原点を見出す作業や「看護倫理」「看護観」演習セッションを増設したこと等の新機軸により、受講者のグループ討議を促進させ、指導者の役割への理解や総合的な満足度の高さ（100%）につながったと思われる。本プログラムの9つのセッションのすべてにおいても「指導上で役立つ」が90%以上であり、本セミナーの目的は達成できたと評価できる。また、受講者が要望する内容等、次年度以降の企画への示唆が得られた。

受付日2012年11月13日 受理日2013年2月14日
佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

I. 緒言

臨地実習という授業では実習施設の指導者の存在は欠かせない。指導者に求められる主な役割には看護師のロールモデルと学生への教育がある。この実習指導者への教育は、1989年の指定規則改訂を機に始まった（杉森ら, 2012）。現在では「保健師助産師看護師実習指導者講習会（計8週間240時間）」が都道府県で開催され（看護行政研究会, 2012）、指導者教育の対象を病院以外の指導者にも広げた「特定分野の講習会」が実施されている。

本学においても、今年で4回目を迎える臨地実習指導者研修セミナーではその対象者を病院外の施設にも広げ、内容・日程面での昨年度評価を基に検討を加え、内容の精選と新企画を導入し実施した。

本報告は、今年度のセミナーの概要説明および「受講者によるアンケート」結果を基にセミナーを評価し、次年度以降の課題を明らかにしたものである。

II. 「臨地実習指導者研修セミナー」の概要（付録1）

1. セミナー参加者の募集

本学の実習受け入れ先の施設代表者を通じて、指導者または指導予定者の参加を募った。

2. セミナーの目的と目標

目的を「看護基礎教育における実習の位置づけならびに、臨地実習場面における効果的な指導方法を理解し、自己の教育観を再構築する機会とする」とし、以下の3点を目標とした。

- 1) 自己の看護職者としての既成概念（価値観）の「ふりかえり」を通して、自己の教育観を明確にできる。
- 2) 効果的な臨地実習指導をするための知識や技術を学び、臨地実習指導者としての

役割を自覚できる。

- 3) 臨地実習における指導方法の原理を理解できる。

3. セミナープログラムの特徴および実際（付録1）

本セミナーの開催は、3日間、計22時間で実施され、受講者総数32人、うち指導経験者は20人（62.5%）であった。

〈プログラムの特徴・配慮〉

- 1) 本セミナーでは、学習環境の調整として、学びの過程で生じる全てを歓迎し、自分を躊躇なくさらけ出せると感じる空間を提供するように努めた。受講者にも、学びの過程として自然に生じる失敗を安心して体験できる場であることとともに、その環境保持のためのルール（他者の発言を失笑しないなど）を伝えた。
- 2) セミナーの実施は、後期の領域別臨地実習開始前とした。
- 3) プログラムの進め方は、最初に受講者が目標を共有できるよう、目的・目標の説明を行い、次に、教育観等の再構築のため、主に演習等を通して現在の自身の価値観に気づき、そこから実習指導の方法のポイントを深められるようにした。

〈今年度の主な変更箇所〉

- 1) 日程を可能な限り連続して実施（8月28日、29日、31日）
- 2) 総時間を延長（16時間から22時間）
 - (1) 演習セッションの追加（看護倫理）
 - (2) セッションの順序変更
 - (3) セッションの延長（私の看護観）
 - (4) 持ち帰り課題の追加
- 3) 日々の看護実践をふりかえる機会を提供
- 4) 情報交換の場として交流会を実施

〈プログラムの実際〉

講義形式と演習形式を組み合わせた9つの

セッションと交流会を用意した。

●第1セッション「本学のカリキュラムの特徴」の講義では、看護学教育の現状とその行方を歴史的見地から概観し、指定規則に留まらない学士課程教育のねらいを、本学カリキュラムの特徴と併せて説明した。

●第2セッション「看護教育の目的」の講義では、ICNの看護学教育の目的を確認するとともに、受講者のこれまでの教育観・学習者観を「ふりかえる」機会とした。また、学習環境への導入セッションとしてアイスブレイキングをセットした。

●第3セッション「実習にかかわる倫理的課題」の講義では、「看護師の倫理綱領」を解説した上で、看護学生が体験しやすいケースにおける倫理的課題の明確化とその解決の仕方について学べるようにした。

●第4セッション「実習指導者の役割(1)」の演習では、前セッションに引き続き、看護における倫理的課題を事例として提示し、それを「4ステップモデルワークシート」を用いて分析した。最初のグループワーク(1つのグループを6~7人で編成)となるため、「グループワークの進め方」を配付し、討論とその発表を行った。

●第5セッション「『私の看護観』の再構築」の講義・演習では、前日の持ち帰り課題「自身の看護実践エピソード」について、グループ討議・発表を行い、何を大切に日々看護実践しているのかを他者やVTRを通してふりかえる機会とした。

●第6セッション「実習指導者の役割(2)」の演習では、実習要項をふまえた実習指導のあり方を事例から確認する場とした。事例文を短くし、受講者が自由に自身の考えを述べ、グループ討議とその発表を行い、発表時には講師がタイピングし、内容を可視化(共有化)できるようにした。

●第7セッション「より効果的な指導方法の実際」の講義では、このセッションを受け

る受講者はこれまでの演習を通して得た気づきをベースに、本講義を受けると想定し、臨地実習の開始前・実習中・実習後のそれぞれで異なる指導方法のポイントを具体的に解説した。

●第8セッション「実習指導者の役割(3)」の演習では、学生の経験を掘り起こすツールとしての「実習記録」を活用した指導方法について考える機会とした。「実習記録」(教材)に各自でコメントを記述した後、グループ討議を行い、受講者間で各自の教育観や指導の在り方を共有した。

●第9セッション「教育観の再構築、キャリアビジョン」の講義では、教育観とキャリアビジョンの再構築を図る機会とした。はじめに、教育評価の観点から実習目標と学習者を知ることの重要性を説明し、続いてセミナー初日に受講者各自が記述した「教育観」をここで再度、各自で検討した。

Ⅲ. 受講者アンケートの実施と結果

1. アンケートの実施方法

アンケートへの協力依頼は、全プログラム修了時に受講者全員に対して呼びかけた。アンケートの目的を口頭で説明し、趣旨に賛同が得られる場合は、その場で記入をお願いし、会場出口に設置した回収箱に入れてもらうようにした。なお、アンケートは連結不可能匿名化した。

2. アンケートの構成

アンケートは、3つの大項目で構成し、大項目Ⅰでは、①日程等 ②内容 ③目的、目標の到達度の3点について質問し、大項目Ⅱで「セミナーで印象に残った学び(知的に刺激されたこと)への記述を求めた。大項目Ⅲでは、本セミナーを概観し、時間を増やして欲しいセッションと理由の記述を依頼した。

回答方式は、Ⅰについては、Likert scale

(1 to 4) 【1－思わない】 【2－あまり思わない】 【3－やや思う】 【4－思う】 とし、ⅡとⅢについては、自由記載による回答を求めた。なお、今回の報告箇所は、Ⅰ～Ⅲである。

3. アンケートの結果

回収率は、100%であった。

1) 開催日程（日数）、学習量、持ち帰り課題、交流会（図1）

本セミナーの「開催の日数は適切だったか」については、「思う」「やや思う」が93.8%であり、「セミナー全体の学習量は適切だったか」については、「思う」「やや思う」が96.9%であった。また、「あまり思わない」と回答があった2件についての内容は、希望日数は、2日と5日が適切としたものであった。

1日目の「忘れられない看護エピソード」を記述する「持ち帰り課題は適切な内容・量であったか」については、「思う」「やや思う」が96.9%であった。

「交流会は有意義なものだったか」については、「思う」「やや思う」が84.4%であった。

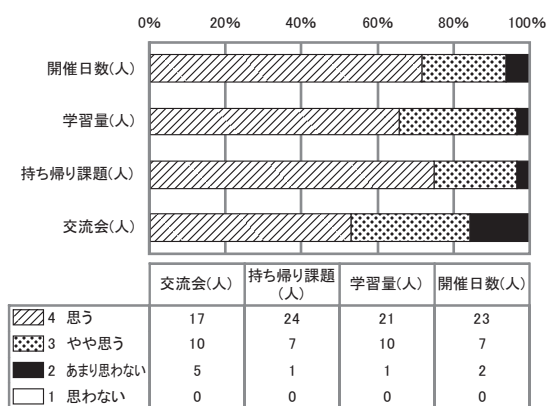


図1 開催日数、学習量、持ち帰り課題等

2) 目的・目標への到達度（図2）

本セミナーの主要目的「臨地実習の効果的な指導方法の理解」と「教育観の再構築の機会」から、3つの目的を設定した。

(1) 「セミナーの前後では『教育観』に変化

があった」については、「思う」「やや思う」の回答が87.5%（28人）、「あまり思わない」「思わない」は9.4%（3人）、未回答が1人であった。

(2) 「セミナーを通して、自身の意外な部分に気づくことができた」については、「思う」「やや思う」が81.3%（26人）、「あまり思わない」が18.8%（6人）であった。

(3) 「実習指導者の役割について深く考えることができた」については、「思う」「やや思う」が100%（32人）であった。

(4) 「セミナー目標達成への努力をした」については、「思う」「やや思う」が、96.9%（31人）であり、「そう思わない」が3.1%（1人）であった。

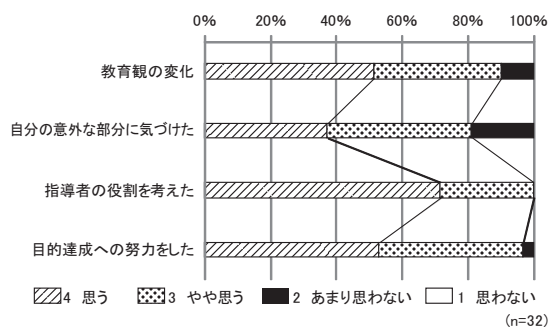


図2 目的・目標についての到達度

3) プログラム（図3）

「総合的に、本セミナーは満足できるものであったか」については、「思う」「やや思う」が100%であった。各セッションについても「思う」「やや思う」が9割を超えていた。

4) セミナーで印象に残った学び（知的に刺激されたこと）（表1）

自由記載を求めたところ、76の記述が得られた。記述を質的にみると、【教育観】【意見交換】【看護観】【ふりかえり】【今どきの学生】【佐久大学】の6つにカテゴリー化された。

記述が最も多かった分類【教育観】では「学生の出来ないところではなく出来ることや可能性に目を向けること」「指導者としての

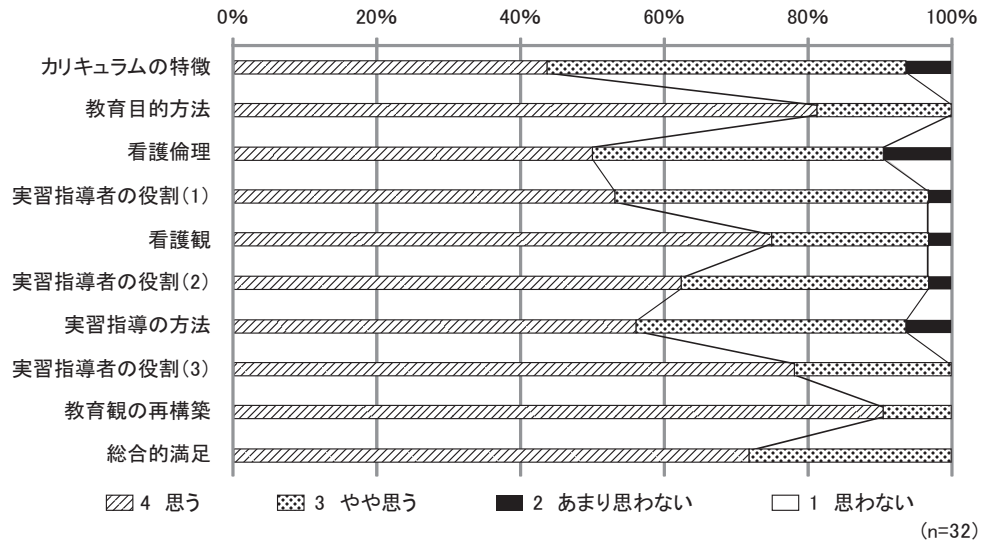


図3 プログラムの満足度

表1 自由記載 (記録単位76)

カテゴリ	自由記載より抜粋
教育観	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者としての役割を改めて考えたこと。(2) ・自己をふりかえることで、あらたな教育観が見いだせたこと。 ・教育とは育てることではなく、育つことを手助けすると学べたこと。 ・指導しなければと思っていたが、一緒に学び、成長すれば良いと思えたこと。(2) ・今までは答えを返していたが、考える力を導いていきたいと思えたこと。 ・「コップの水」の例えのように、学生のできない部分に目をむけるのではなく、できることや可能性に目を向けようと思ったこと。(8) ・自分のやり方が間違っていなかったことに安心し、曲げない信念をもったこと。(2) ・はじめて教育の観点から看護を見て刺激されたこと。(2) 他
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士で考えや思いを共感できたこと。(2) ・他者の意見から学べたこと。(5) ・同じ立場にある参加者の経験から学べたこと。 ・発言することで自分の考えが再確認できたこと。(4) 他
看護観	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れられない看護のエピソードについて行ったグループワークは楽しく、自分の看護の原点が見えた気がしたこと。 ・グループワークを通じて看護観が明確になったこと。 ・自分の看護観を学生に伝えたいと思ったこと。(3) 他
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の価値観や看護をふりかえる機会になったこと。(3) ・これまでの実習指導が適切ではなかったことをふりかえり、気持ちを新たにしたこと。 ・講義内容をきっかけに、過去の体験を具体的にふりかえたこと。
今どきの学生	<ul style="list-style-type: none"> ・今どきの学生について知りたいこと。 ・今の学生が何を必要としているか知りたいこと。(2) ・今の学生が何をどのように学んでいるか知りたいこと。 他
佐久大学	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久大学の教育方針や実習指導者に求める学生への対応がわかったこと。(3) 他

役割を改めて考えたこと」とあるように、新しい教育観を自己の価値観と照らし合わせて回答するものであった。

次に多かった記述分類は、グループワークを通して、「他者の意見から学べた」「発言することで自分の考えが再確認できた」という【意見交換】についてであった。

続いて、日々の実践の原点を確認した【看護観】、演習と講義をきっかけとしてこれまでの実習指導を思い返す【ふりかえり】、学生への関心として【今どきの学生】、そして教育方針とその対応について【佐久大学】、についてであった。

5) さらに時間を増やして欲しい講義

今回のセミナーのうち、さらに時間を増やして欲しいと回答があったセッションは、5つであり、【教育観の再構築】が10人と多く、続いて【実習指導者の役割(3) (実習記録を通しての指導方法の演習)】、【看護観】、【看護倫理】、【教育の目的方法】であった。

表2 さらに時間を増やしてほしい講義 (人)

講義	(人)
教育観の再構築	10
実習指導者の役割(3)	3
看護観	1
看護倫理	1
教育目的方法	1

IV. 総括評価

本アンケートの結果からみた評価は、以下のように総括できる。

1) セミナー日程・学習量・課題・交流会について

受講者の回答からみて、昨年度の間歇的な3日間から今回、連続3日間（最終日のみ隔日）に変更し実施したことは、適切だったといえる。学習量についても受講者の回答からは本日程としては適切だったといえる。

今年度新たに企画した持ち帰り課題については、量・内容も適切であったことから、今後も一人でじっくり時間をかけて考える内容については持ちかえり課題が望ましい。

同様に新設企画の受講者と講師の「交流会」については、前セッションの「私の看護観」のグループを利用し実施した。初めに担当者から交流会の進め方と和やかになるようなスピーチを入れ、その後、それぞれのテーブルでは看護について、学生の様子について、指導で悩んでいることに話が弾んだ。一見、無駄な時間のようにも思えるこの交流会は、講師にとっても受講生にとっても尋ねてみた

いことを互いに筋道を立てずに気ままに話せる貴重な時間でもあったのではないかと思われ、今後も継続していきたい。

2) 目的・目標の達成状況について

本セミナーのプログラムは、受講者の経験や自己概念を教材化する成人学習モデルをベースに構成している。その場合、受講者は、新たな知識を獲得するというだけでなく、自身の経験を講義や演習を通して俯瞰することができ、自己の教育観を再構築する機会となる。また、その過程で他者の考え、思いやその表れ、それらへの感性や配慮のあり方も含めて自己の傾向を安心してふりかえることができる。

今年度はそれらの視点に立ち、『私の看護観』として自身のこれまでの実践エピソードをふりかえる機会を設けた。そこに自己の指導の原点を見出す作業や「看護倫理」の演習セッションを増設したことでグループ討議の時間が増えたことが各自の発言機会を増やし、総合的な満足度（100%）につながったと思われる。

3) プログラム内容について

本プログラムを構成した9つのセッションのすべてにおいて、「指導上で役立つ」が90%以上であった。これは、前項で述べたグループ討議の時間の増大が学習の質と関係していることが推定でき、成人学習モデルである経験に基づく学習の効果を裏付けた。

今回のセミナー結果は、受講者個々の学ぶ力の相互作用によるものと、本プログラムの内容構成とのコラボレーションによる成果であると思われる。

以上のことから本セミナーの目的は達成できたと総括できる。

V. 今後の課題

- 1) セミナー開催日程は、可能な限り3日間の連続日程が好ましい。一方で、新たな学習項目への希望があることから、開講時間の延長の検討を、単位制1単位(30時間)を視野に入れた検討を行う余地がある。また、交流会は、リラックスの場となることで、何気ないやりとりに見える内容が実は、教育の本質を語っていることもあるため継続が望まれる。
- 2) セミナーの目標が達成されるには、受講者の経験を教材化できることが望ましく、それには、演習形式は効果的である。
- 3) プログラムは、受講者の経験をベースとして進めることが効果的であるため、講義は演習内容のふりかえりができるように効果的に組み入れる。
- 4) セミナー受講者の募集は、今年度同様に多くの施設を対象に行うことが、よりよい学習環境の醸成につながる。

謝辞

今回アンケートにご協力いただきました受講者の皆様に感謝申し上げますとともに、この場をお借りしまして、本セミナーへのご理解と本学の教育へのご理解・ご協力をいただきました多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

文献

- Jacobs, F., & Hundly, S. P. (2010). *Understanding and Supporting Adult Learners: A guide for colleges and universities*. Jossey-Bass.
- 看護行政研究会 (2012). *看護六法* (平成24年度版). 東京: 新日本法規出版.
- Knowles, M., Holton, E.F., & Swanson, R. A. (1998). *The Adult Learner: The Definitive Classic in Adult Education and Human Resource Development* (5Ed). Butterworth-Heinemann.
- 杉森みど里, 舟島なをみ (2012). *看護教育学* (第5版). 東京: 医学書院.

付録1 プログラム

月日	時間	内容	具体的内容	講師
8/28 (火)	9:30- 9:40	ごあいさつ		竹尾 恵子
	9:40-10:50	本学カリキュラムの特徴	本学の特徴と学士課程教育のねらい	堀内 ふき
	11:00-12:30	看護教育の目的と方法	看護基礎教育の目的、学習観、教育観	吉田 文子
	13:45-15:15	看護倫理	実習にかかわる倫理的課題	八尋 道子
	15:25-16:55	実習指導者の役割 (1)	グループワークを通して課題を解決	宮崎 紀枝
	16:55-17:10	2日目の課題説明	持ち帰り課題の説明	橋本 佳美
8/29 (水)	10:00-12:00	『私の看護観』の再構築	ビデオ試聴 (20~30分)、ディスカッション	橋本 佳美
	12:00-13:15	交流会		弓削 美鈴
	13:15-14:45	実習指導者の役割 (2)	グループワークを通して課題を解決	征矢野あや子
	15:00-16:30	実習指導の方法	より効果的な指導方法の実際	水野 照美
8/31 (金)	10:30-12:00	実習指導者の役割 (3)	グループワークを通して課題を解決	鈴木 千衣
	13:15-14:45	教育観の再構築	教育観の再構築、キャリアビジョン	吉田 文子
	14:45-16:00	終講のご挨拶	アンケート、修了証授与	宮地 文子